

令和5年度 多摩市立多摩第一小学校 学校評価書

学校教育目標	
憲法・教育基本法の精神を尊重し、人権尊重の精神を基調として「未来を切り拓く資質・能力」「2050年の大人づくりに向けた社会性」の調和のとれた育成を目指す。	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
あいさついっぱい、いつも笑顔の楽しい一校 「分かる楽しさ、できる実感、伝える喜びを大切に作る学校」 「子どもたちが安心して、元気に学べる学校」 「保護者・地域から信頼される学校」	
目指す子供像	目指す教師像
自ら考え行動できる子 自ら学ぶ子 思いやりのある子 健康な子	○進んで取り組み、思考力・表現力を高め、最後までやり抜くことのできる確かな学力を育む ○互いのよさを認め、自己を見直し、思いやりのある行動のできる豊かな心を育む ○めあてをもって進んで取り組む強い意志と健やかな体を育む

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	主体的・対話的で深い学び・キャリア教育・ESDの学びの推進			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員意見
個別最適で協働的な学びにより主体性と思考力等を高める指導。ICT機器の活用と振り返り場面の重視等の授業改善。キャリアパスポートの6年間を見通した活用。学校評価で80%以上の肯定的評価	3	校内研究で振り返りを重視した授業研究を進め、日頃の授業でICT機器を活用した授業を推進した。分かりやすい・授業改善の肯定的評価保護者 87%児童 93%	A	ICTの取組を着実に進めることができている。さらなる効果的な活用を期待する。
SDGsを踏まえたESDの学びの推進。年3回の交換授業、ねらいを踏まえた教育活動の見直し等、組織的なカリキュラム・マネジメントの推進。学校評価及び学校公開アンケートで80%以上の肯定的評価	3	ESDについて外部人材を活用しながら推進した。12月以降交換授業を実施し、教科担任制に向けた準備を進めた。ESDの肯定的評価保護者 88%	A	生活科・総合的な学習の時間の発表会「たまわんぱーく」を中核にし、素晴らしいカリキュラム・マネジメントができている。
評価のまとめ	ICT機器の活用、ESDの取組を学校運営協議会委員から高く評価いただいた。次年度、教科担任制を推進するとともに、ICT機器を一層効果的に活用し、個別最適で協働的な深い学びのある授業改善を図り、児童の学力を高めていけるよう工夫していく。			

(2) 豊かな心と健やかな体の育成

重点目標	いじめ等の未然防止と早期解決、安全教育等の組織的な対応 不登校児童数の低減、体育・健康教育の推進、特別支援教育の充実			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員意見
児童アンケート等によるいじめの認知、把握、早期解決を図り、学年やいじめ対策委員会等による組織的な対応。学校評価で10%以内の否定的評価 家庭との連携による学校及び家庭ルールの見直し。児童の主体的と情報モラルに関する実践力を高め、ネットいじめをゼロ	4	週1回の生活指導打ち合わせ、月1回のいじめ対策委員会で情報共有の上組織的な対応を実施した。11月のアンケート結果で軽微ないじめ40件、ネットいじめ0件。授業参観の際いじめに関する弁護士の話やセーフティ教室を実施し保護者と情報共有した。「いじめ」の項目の否定的評価、保護者10%児童5%以下	A	いじめの発生を100%防ぐことは難しい。児童アンケートの結果を踏まえると、適切な指導ができていると考える。
Q-Uアンケート結果を踏まえた個別最適な学びを重視した学級経営や学校が楽しいと児童が感じる魅力ある授業づくり。不登校対策委員会を中心とした組織的対応等により不登校出現率の市平均以下への抑制	4	月1回の不登校対策委員会で情報共有し組織的なゆかり教室の紹介等の対応を行う。Q-Uアンケートを5年で実施し教員研修で対応理解を深めた。11月不登校出現率1,16%市平均2,19%を下回る	A	不登校について100%出現がないということは難しい。適切に指導できていると考える。
個別指導計画を踏まえた指導、通常学級における児童の困り感に応じた支援の充実。配慮が必要な児童や学級の課題を共有し組織的な対応。週1回生活指導会議月1回校内委員会年3回教育相談全体会実施。個に応じた授業等の推進により学校評価で80%以上の肯定的な評価	4	児童一人一人の困り感に対応した指導の工夫を明記した個別指導計画を作成し指導を進めた。週1回の夕会、月1回の校内委員会、年3回の教育相談全体会で情報共有し、すべての教員が連携した指導を進めた。指導の工夫の児童評価93%保護者の否定的評価8%	A	指導の工夫に関する児童の評価を踏まえ、適切に指導できていると考える。
運動習慣の定着を目指し、めあてを明確にした体育授業、2020レガシー及び体力向上の取組等のカリキュラム・マネジメントにより、児童の運動意欲と体力の向上。「もっと運動したい」と考える児童を80%以上	4	年間を通してイチリンピック、タグフライデー等の体力向上の取組を実施した。体力調査の結果が都平均値を概ね上回った。体力・健康教育に関する肯定的評価保護者84%児童1,2年88%3年以上93%	A	体育・健康教育に関する児童の評価を踏まえ、適切に指導できていると考える。
評価のまとめ	いじめや不登校に対する丁寧な対応への評価を得られた。担任、校内委員会、SCや家庭・地域、外部専門家と連携を図り、合理的配慮の視点と児童の豊かな心の育成を大切にしたい指導を行っていく。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	標語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(3) 家庭や地域との連携

重点目標	コミュニティ・スクール制度に基づいた学校評価の改善と地域に開かれた学校づくりの推進。児童・保護者・教員がともにプラスになる教員の授業力向上と働き方改革の推進による、将来の社会を担う人材を育むことのできる学校づくり		
評価項目	自己評価		学校関係者評価
	評語	現状の分析と改善策	評語 学校運営協議会委員意見
コミュニティ・スクールの趣旨を踏まえ、学校運営協議会とリンクした学校評価の実施と教育活動・保護者会・個人面談の改善による地域と共にある学校づくりの実現。学校メール・HP・各種たより、PTA と連携した情報発信等の改善。学校評価で 80%以上の肯定的評価	4	保護者・児童アンケートの実施時期を早め、学校評価の分析結果を踏まえた教育活動の実施状況を提出する等、学校運営協議会の運営の適正化を図った。対面とオンラインを併用した個人面談を実施する等保護者のニーズに応じた改善を進めた。保護者の肯定的評価、情報発信 94%学校公開 96%	A 保護者への情報共有等、丁寧に対応できていると感じる。
データ活用、ペーパーレス化、会議や押印の精選、児童欠席連絡等のICT化等、業務の一層の効率化と学校行事の見直し等による働き方改革の推進。学校内教職員評価で 80%以上の評価	4	職員打ち合わせの削減、会議資料のペーパーレス化の徹底、学校情報のメール配信や児童欠席連絡のICT活用等の取組を定着できた。学校内部評価で100%の評価	A 積極的にペーパーレス等を実現できていたと感じる。
評価のまとめ	個人面談の機会を対面・オンライン等の工夫により改善を図っていることや、学校評価や学校だより等による保護者との情報共有について、高い評価を得られた。今後も家庭・地域との連携の充実を図っていく。		

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

「個別最適で協働的な深い学びにより、主体的に考える児童を育成する教育課程の推進と、児童・家庭・学校のすべてにプラスとなる働き方改革」「児童・家庭・地域に最適なコミュニティ・スクールの推進」

(1) 東京都教科担任制等推進校として、授業の質の向上を図り、児童の主体的な学びや学習意欲の向上につなげていくこと。児童一人一人に複数の教員が関わる機会が増える教科担任制の指導のよさを加えることにより、学校全体で児童の成長を支援する体制を構築していくこと。

(2) 教職員の働き方改革を教育行政機関や管理職から指示されて行う受け身の改革ではなく、児童・家庭・学校のすべてにプラスとなる視点で、教員自らが主体的に考え、責任をもって実行できる人材を育成すること。

(3) 「ユネスコ・スクール」「子若条例」等の特色をもつ多摩市のコミュニティ・スクールにふさわしい教育活動を推進すること。

以上のとおり報告いたします。

令和6年3月8日

多摩市立多摩第一小学校 校長 木下 雅雄

公印

# 令和5年度 学校評価書



## 多摩市立多摩第一小学校